



【海の状況 (6/16~7/15)】

- ・ 神子地先の表面水温…22.1℃~27.3℃ (平年差0.5℃~2.6℃) の範囲で平年より高く推移した。(図1)
- ・ 米ノ地先の表面水温…21.8℃~25.9℃ (平年差0℃~1.4℃) の範囲で平年より高く推移した。(図2)

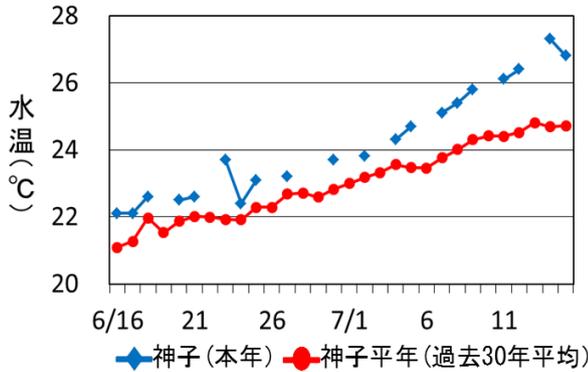


図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移

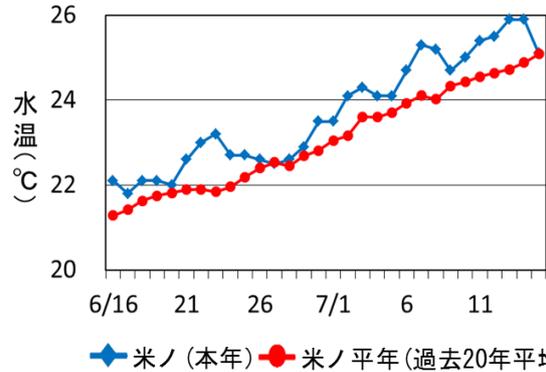


図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

- ・ 若狭湾および周辺海域の水温分布は、表面 (0m) では前年より低い海域(16~18℃)がみられた。水深200mでも前年より低い海域 (2~4℃) がみられた。水深50m、水深100mでは沿岸域の一部で前年より高い海域 (16~18℃) がみられた。(図3)

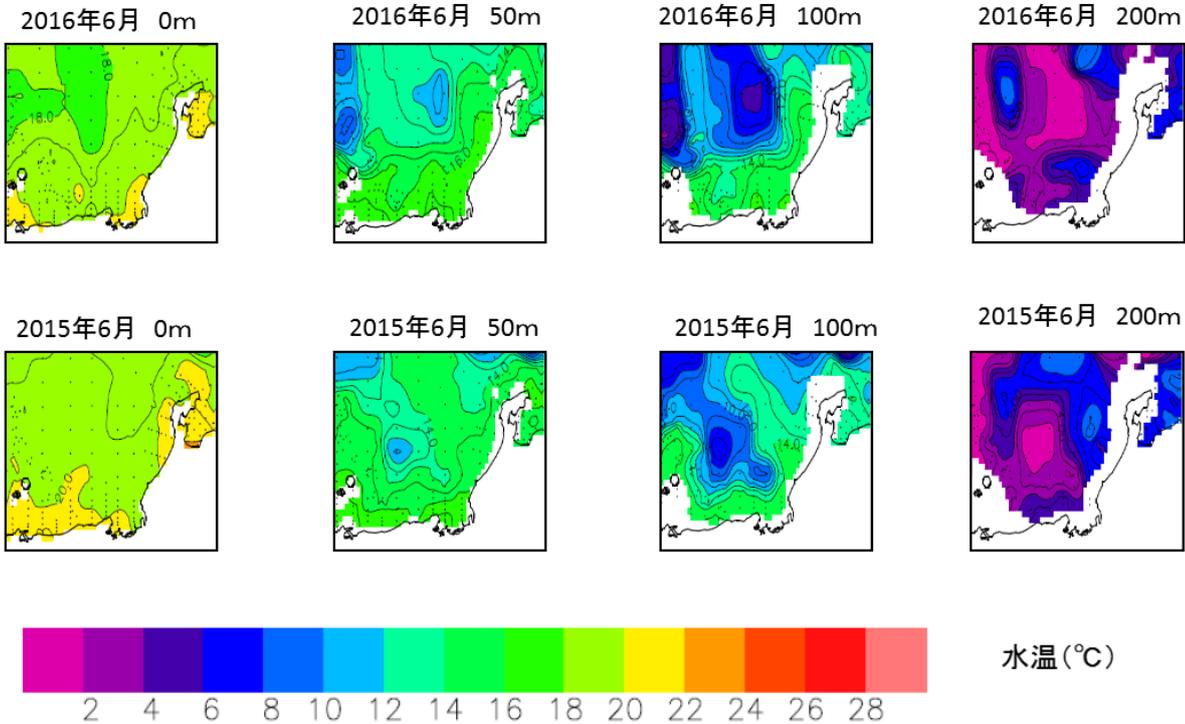


図3. 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

大型クラゲ情報

福井県にて今年初めて大型クラゲが確認されましたのでお知らせいたします。
詳細は水産試験場ホームページの大型クラゲ情報をご覧ください。

平成 28 年度 第 2 回 日本海海況予報

日本海区水産研究所から発表されました日本海海況予報をご紹介します。

- 対馬暖流域の表面水温は、やや高め（1.0℃程度）で経過する。
- 対馬暖流域の 50m 深水温は、日本海北部・西部ともにやや高め（1.0℃程度）で経過する。
- 能登半島北方の暖水域は、停滞する。
- 若狭湾沖の暖水域は北東に移動した後消滅する。
- 山陰・若狭湾沖の冷水域の張り出しはやや小さくやや離岸する。
- ※（独）水産総合研究センターのホームページ（<http://www.fra.affrc.go.jp/>）においても閲覧することができます。

〔県内の漁模様：6 月〕

2016 年 6 月の県内の総漁獲量は 1394t で、昨年同月を 7t 上回った。

〔定置網〕

漁獲量は 1035t で、昨年同月を 78t 上回った。サバ類、ブリ類、サワラ等は昨年同月を上回り、トビウオ、マダイ、スルメイカは下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は 59t で、昨年同月を 11t 下回った。アカガレイは昨年同月を上回ったが、それ以外の魚種はコウイカを除き下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は 300t で、昨年同月を 60t 下回った。スズキ、ケンサキイカ、タコ類等は昨年同月を上回り、トビウオ、マダイ、スルメイカ等は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(6月)

定置網 (kg)						底びき網の続き (kg)					
魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差	魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差
カタクチイワシ	7,709	2,722	8,250	4,987	-542	その他イカ	120	140	351	-20	-231
アジ類	223,983	218,921	332,145	5,062	-108,162	タコ類	265	487	730	-222	-465
サバ類	77,249	40,722	59,503	36,526	17,746	アカエビ	34,284	45,221	40,225	-10,936	-5,941
マグロ類	4,611	3,159	5,351	1,452	-740	その他エビ	2,931	3,315	3,750	-384	-819
ブリ類	243,459	179,339	283,509	64,120	-40,050	その他	2,822	4,988	2,799	-2,199	-10
(ブリ)	45,486	53,542	60,522	-8,055	-15,036	合 計	58,742	69,711	57,207	-10,969	1,536
(ワラサ)	8,047	4,282	13,193	3,765	-5,146	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
(ハマチ)	79,454	46,157	55,475	33,296	23,979	魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差
(ツバス)	110,395	75,319	154,250	35,076	-43,854	トビウオ	14,258	27,133	3,420	-12,875	10,838
(アオコ)	77	39	69	38	8	マダイ	6,359	7,700	4,601	-1,340	1,758
サワラ	239,330	200,021	83,903	39,309	155,427	キダイ	9,941	17,574	8,394	-7,633	1,547
トビウオ	148,222	225,162	180,648	-76,940	-32,426	アマダイ	2,933	2,880	4,623	53	-1,690
マダイ	3,952	7,268	11,177	-3,316	-7,225	スズキ	5,917	3,943	5,358	1,974	559
スズキ	19,634	9,030	7,178	10,603	12,455	フグ類	636	252	77	384	558
カマス	9,398	7,653	6,974	1,746	2,424	メバル類	3,302	2,044	4,656	1,258	-1,354
スルメイカ	9,119	30,042	13,673	-20,923	-4,554	キス類	600	1,103	521	-502	79
ケンサキイカ	26,167	3,162	9,272	23,005	16,895	スルメイカ	118,739	150,260	187,571	-31,521	-68,832
その他	22,348	29,908	35,315	-7,560	-12,967	その他イカ計	7,554	2,027	3,812	5,527	3,742
合 計	1,035,180	957,108	1,036,897	78,072	-1,717	アオリイカ	38	132	819	-93	-780
底びき網 (kg)						ケンサキイカ	7,206	1,278	1,804	5,928	5,402
魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差	ヤリイカ	41	29	283	12	-242
マダイ	56	658	813	-602	-756	コウイカ	206	267	721	-61	-515
キダイ	26	1,949	897	-1,923	-871	タコ類	42,678.15	33,827.2	36,887.135	8,850.95	5,791.015
ヒラメ	21	82	48	-61	-27	アカエビ	2214.64	2,276.24	488.037	-61.6	1,726.603
アカガレイ	16,023	10,243	4,335	5,780	11,688	その他	56,179	68,464	87,053	-12,285	-30,875
その他カレイ	2,118	1,665	1,298	453	820	合 計	300,025	359,729	368,051	-59,704	-68,026
ハタハタ	45	662	1,163	-617	-1,118	全漁法 (kg)					
メバル類	10	125	78	-115	-68	魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差
スルメイカ	5	45	6	-40	-1	合 計	1,393,947	1,386,548	1,462,155	7,400	-68,208
コウイカ	16	16	22	0	-6						

※1 平年の値は2006-2015年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3ズワイガニはオス・メス・水ガニに分けて集計しています。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：6月の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府：6月のJF京都府舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。兵庫県：5/28-6/30の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県：6月中旬～7月上旬のまき網の1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マアジ 18.8t、サワラ類 5.5t、マイワシ 2.2t、サバ 2.0t、ブリ 1.4t、スルメイカ 0.8t

京都府…定置網…サワラ類 5.8t、トビウオ 2.7t、マアジ 2.6t、ブリ類 2.3t、スズキ 0.8t、ウルメイワシ 0.8t

兵庫県…定置網…マアジ 327kg、トビウオ 100kg、ツバス 72kg、スズキ 26kg、スルメイカ 11kg

鳥取県…まき網…マアジ 12.0t、マイワシ 4.4t、ウルメイワシ 3.6t、マサバ 2.8t、ブリ類 1.1t、カタクチイワシ 0.1t

平成28年度スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海側の各試験研究機関によるスルメイカ漁場一斉調査が、6月下旬から7月上旬にかけて行われましたので、その結果についてお知らせします。

(1) 福井県の調査結果

福井県沖合の4定点において、釣機6台を用いて毎晩20時～4時の8時間釣獲試験を行いました。

- 漁場水温…釣獲海域の表面水温は21.2～22.9℃(2015年;20.5～22.4℃)、50m深水温は14.7～16.2℃(同;13.3～15.6℃)でした。
- 釣獲結果…総釣獲尾数は、1,340尾(2015年;2,077尾)、CPUE(釣り機1台1時間あたりの釣獲尾数)は1.2～11.9尾、平均7.0尾でした。
- 体長組成…釣獲されたイカの胴長(外套背長)は、6月27日操業においては15～16cm、6月28日操業においては20～21cm、6月29日操業においては16～17cm、6月30日操業においては17～18cmの個体が主体でした。

表1 調査点およびスルメイカ釣獲調査結果

月日	6月27日	6月28日	6月29日	6月30日
調査位置	N 36° 40'	N 38° 03'	N 37° 33'	N 36° 59'
	E134° 59'	E134° 57'	E135° 39'	E135° 41'
釣獲尾数	57	436	92	207
CPUE	1.2	9	1.9	8.6
平均胴長(cm)	16.3	20.5	17.5	17.4
表面水温(°C)	21.8	21.2	22.2	22.9
50m深水温(°C)	14.7	15	16.2	15.8
標識放流尾数(尾)	0	155	50	100
標識番号 (黄色アンカー型タグ)		JPN I20 I21 I39	JPN I31	JPN I30 I38

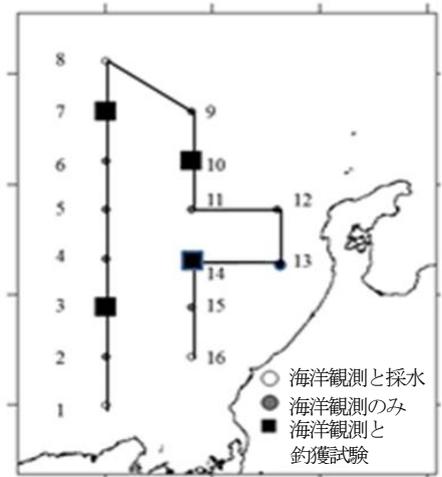


図1. スルメイカ釣獲調査定点

(2) 日本海全体の状況

日本海区水産研究所の取りまとめによると、全調査定点におけるCPUEの平均は11尾で、前年(15尾)を下回り、近年平均(18尾)の約60%でした。道北～道央海域では、外套背長17～18cm台および19～20cm台の個体を中心に採集され、CPUEは35尾が最大で、50尾を超える調査点はありませんでした。

日本海沿岸域では、北部および西部で16cm台以下の小型個体を中心に採集されました。すべての調査点でCPUEは20尾未満でした。沖合域では、大和堆周辺海域におけるCPUEは、他の海域より比較的高かったが、50尾以上の調査点はなく最大で38尾でした。

今後の見通しとして、西部日本海では、来遊量は前年および近年平均を下回っており、沖合からの南下群による好漁場は形成されにくいと予想されます。沖合域の漁況も、前年および近年平均を下回ると予想されます。主漁場は、8月～11月は道北沖、11月～12月は大和堆周辺海域に形成されると予想されます。

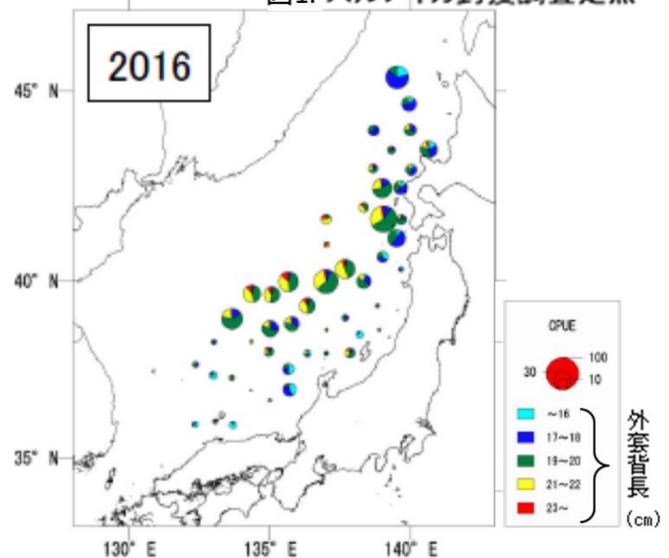


図2. 日本海におけるスルメイカの分布状況 (7月)

本調査では合計305匹のスルメイカの標識放流を行いました。標識の付いたスルメイカを採捕されましたら、水産試験場までご連絡をお願い申し上げます。

(漁場環境グループ 山下 慎也)

標識をつけたヒラメを放流しました。

標識のついたヒラメを発見したら情報提供をお願いします。

7月21日に越廼漁港地先に標識を付けたヒラメ稚魚を放流しました。

標識（目印）の付いたヒラメを漁獲あるいは市場に水揚げされているのを発見した際は、

- ・ 標識の種類
- ・ どの海域で漁獲
- ・ 全長

の情報提供をお願いします。



標識は、右の写真のとおり①タグまたは②パンチングの2つのパターンがあります。再捕尾数を基に、今後つける標識の参考にと考えています。

①タグ標識は非常に発見をしやすいですが、標識が抜けたり、標識が刺さった状態なので常に傷口が開いており、体が小さいうちは負担が大きい、などのデメリットがあります。

②パンチング標識は、魚体に穴を空けると、傷痕が黒い斑点になるので、並んだ斑点が標識（目印）となります。ただ、斑点を確認するにはひっくり返さないといけないので、少し手間が掛かります。

なお、パンチングでは、魚体に直径3mmほどの穴を空けるので、体が小さかったり、体力が落ちているときには、標識を着けられませんが、治ってしまえば魚に負担はありません。

本県以外でも、日本海側の各府県がヒレカットやタグなど色々な標識を付けて放流していますので、標識のついたヒラメを見かけた際には、水産試験場まで御一報ください。

(漁業管理グループ 松宮)

